

観光まちづくり アドバイザー派遣事業

(令和4年度募集事業)



目的及び実施内容

各地域が持つ観光資源を活用した観光まちづくりを展開することができるよう、地域の要望に応じてアドバイザーを派遣し、観光まちづくりの取組に関する指導・助言を行うことにより、地域活性化を図りさらなる観光振興を図ることを目的とする。

01 派遣対象事業者及び対象地域

地域で主体となって観光まちづくりに取り組んでいる又は取組を予定している団体及び今後観光まちづくり団体を組織しようとする団体

02 派遣の要件

アドバイザー派遣時のみの一過性の活動ではなく、持続性のある活動を期待できる団体等であること。
なお、同一目的の派遣については、原則3年を派遣期間の上限とする。

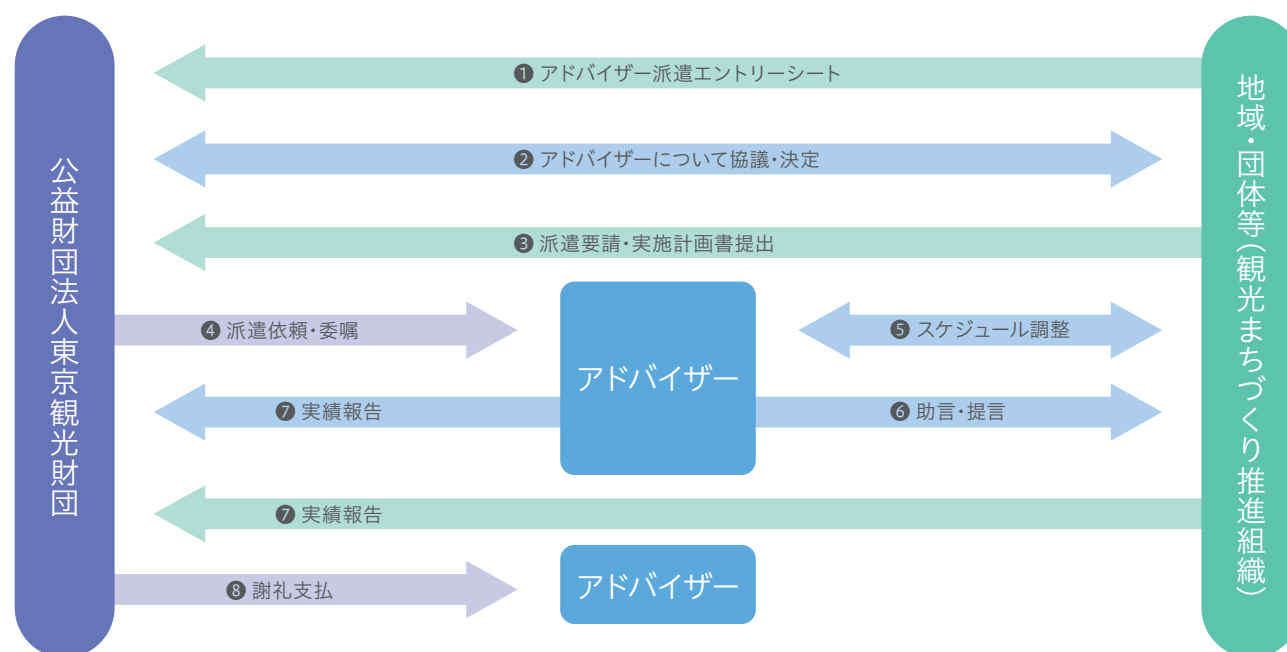
03 アドバイザーの役割

観光まちづくり全般に関連した指導や助言

04 派遣回数

原則10回以内(1団体当たり 最大40時間×派遣人数2名=80時間)

事業スキーム (令和4年度)



東京都観光まちづくりアドバイザー人材バンク

当事業の概要はこちらから → <https://www.tokyo-adviser.jp/>



観光まちづくりアドバイザー派遣事業

令和4年度

contents 目次

01

観光地域づくりへ主体的に参画するための観光データの収集・分析方法について
(八王子市)

04

02

みたか都市観光協会設立15周年を記念したオリジナル商品の開発
(三鷹市)

06

03

こくぶんじ観光まちづくり協会の法人化に向けた検討
(国分寺市)

08

04

今後の多摩市観光まちづくり交流協議会で取り組む活動と参考事例について
(多摩市)

10

TOURISM ACTIVATION FORUM TOKYO 2024

- 自立化に向けた組織強化の一つでもある会員数の拡大では、加入することによる特典サービスの工夫や、会員同士の結び付けなどといった組織一体となった連携関係の構築が必要である。

みたか都市観光協会設立15周年を記念したオリジナル商品の開発

- 団体名 特定非営利活動法人 みたか都市観光協会
- 派遣アドバイザー まちづくりラボ・サルベージ株式会社 大迫 道治
- 派遣地域 三鷹市



現状・課題

NPO法人設立15周年記念として、みたか都市観光協会による三鷹のお土産品開発に着手した。商品開発に当たっては、三鷹産バタフライピー^(※)等の地域資源を活用するとともに、令和4年10月に三鷹市で開催された「星空の街・あおぞらの街」全国大会のレガシーをテーマに、「天文台があるまち三鷹」をイメージした商品となるよう工夫したいと考えた。

(※) マメ科の植物で、花の抽出液は鮮やかな青色をしており、染料として使用される。

令和4年12月、観光協会、市内農家（バタフライピー生産者）、市内和菓子製造販売事業者、管理栄養士、三鷹市（産業振興部署）の5者で開発チーム「これぞ三鷹の逸品！新商品開発プロジェクト」を立ち上げた。

コンセプトに沿った商品の作り方、品質・衛生管理、お土産品や贈答品として広く市内外の消費者に興味を持ってもらえるようなパッケージデザインなどを研究する必要があることから、アドバイザー派遣を依頼した。



●バタフライピー

実施内容

■第1回 令和5年3月20日（月） 「商品コンセプトの共有」リアル開催

- 市内和菓子製造販売事業者を視察するとともに、市内の地域資源、商品のコンセプト、顧客ターゲットについてアドバイザーと共有した。
- 賞味期限を延ばす手法について、シーラー機械の購入など複数の選択肢の提案を受けた。

■第2回 令和5年4月28日（金） 「ゼリー系製品を製作するうえでの課題の共有」リアル開催

- 和菓子製造販売事業者にゼリー系製品の試作をしてもらい、チームメンバー及びアドバイザーで初の試食会を行った。
- 「ゼリー製品の保存性を高める考え方」「バタフライピーを使った餡子と2層ゼリーの懸念される問題点」について説明を受けた。

■第3回 令和5年6月26日（月） 「殺菌方法、賞味期限検査及びパッケージについて」リアル開催

- メンバー及びアドバイザーでともに試作を行い、試食会を行った。
- 賞味期限を延ばす方法について、シーラー機械は予算面を考慮し導入を断念した。代わりに、ゴム容器に餡子（1層）とゼリー（2層）を充填し、低温殺菌する手法が有力となった。
- 賞味期限を含む食品検査を実施している機関の紹介を受けるとともに、他の観光協会等が作成しているパッケージの好事例について説明を受けた。



■第4回 令和5年7月24日（月） 「低温殺菌に耐える商品及びパッケージについて」リアル開催

- 前回のミーティング後、試作品を低温殺菌したところ、1層部分（餡子）が溶解してしまった。これを改善すべく、原材料を変えながら試作を重ね、低温殺菌に耐える製品の試食会を行った。
- コンセプトに沿って「ほしぞら」「あおぞら」に見立てた球体の2つの商品をセットで販売することとし、三鷹産ブルーベリーを使用することも決定した。また、それに合わせたパッケージについて議論した。

■第5回 令和5年8月28日（月） 「バタフライピー見学会及び商品名の決定」リアル開催

- 市内の森屋農園を視察し、原材料となるバタフライピーを視察、摘み取りを行った。
- 視察後、ミーティングを行い、商品名を「みたか宙球（そらだま）ゼリー」に決定した。（ミーティング後、「みたか宙球（そらだま）ゼリイ」に変更した。）
- パッケージは市内のデザイナーに依頼し、チームにも参加してもらうこととなった。

■第6回 令和5年9月11日（月） 「ロゴ及びパッケージデザインについて」オンライン開催

- デザイナーから、ロゴ及びパッケージデザインのラフ案の提示を受けて、メンバー及びアドバイザーで議論した。「天文台があるまち三鷹」「ほしぞら」「あおぞら」をイメージできるデザインだったので、ラフ案をベースに詳細を詰めていくこととなった。



成果

①品質・衛生管理における理解向上

観光協会として食品開発はまったく初めての経験だったため、わからないことばかりであったが、賞味期限を延ばす方法、殺菌方法、食品検査における重要なポイントなどについてわかりやすい説明を受けたことにより、何が問題であり、何をしなければならぬかを理解することができた。



●ほしぞら



●あおぞら



●みたか宙球ゼリイ

②パッケージを含む商品の見せ方の工夫

パッケージによって売り上げが大きく変わる事例を紹介してもらうとともに、チームメンバーと一緒に議論に参加していただいたことにより、チームとしての意見交換が活発になり、「三鷹らしさ」を前面に出し、かつ売れる商品について研究することができた。

課題

- ① 令和5年9月をもってアドバイザー派遣は終了したが、10月時点においてまだ食品検査とパッケージ製作が残っている。チームメンバー一丸となってクリアしなければならない。

今後の展開

- ① 令和5年11月のお披露目会及び11月18、19日に開催される東京観光財団主催の「TOKYO周獲祭2023」への出店販売を皮切りに、さまざまなイベント等に参加して積極的に売り込んでいく。
- ② 発売後の消費者の声に耳を傾け、改善すべきところはチームメンバーで話し合いながら策を講じていく。

こくぶんじ観光まちづくり協会の法人化に向けた検討



- 団体名 こくぶんじ観光まちづくり協会
- 派遣アドバイザー 公益財団法人 公益推進協会 代表理事 福島 達也
- 派遣地域 国分寺市

現状・課題

現状

こくぶんじ観光まちづくり協会（以下「協会」と言う。）では、平成30年度から令和2年度の観光まちづくりアドバイザー派遣事業を活用し、今後の協会のあり方について検討を行ってきた。具体的には新組織検討特別委員会を協会内に設置し、アドバイザー参加のもと、活動や目的の明確化、組織の名称、会員区分の変更の検討を行い、観光協会の新たな展開に向けた基本方針（案）を作成した。これらの変更を踏まえた会則の改正及び基本方針（案）は令和3年度総会において可決され、令和4年4月から「こくぶんじ観光まちづくり協会」に名称を変更して活動している。また、協会の法人化については新組織検討特別委員会で引き続き検討を進め、令和5年度に協会の法人化を目指し、法人化に必要な諸手続きの整理や近隣団体のヒアリング等を行った。今後は専門的な知見を有する方から具体的な助言を受けながら、法人化に向けた諸手続きに着手していきたいと考えている。

課題

- ① 協会の法人化に向けて、予想される問題の洗い出し
- ② 法人化に必要な手続や調整事項、スケジュールの具体化
- ③ 事務局体制や事務所位置の検討
- ④ 法人登記に係る手続（定款や規約の作成等）の整理
- ⑤ 新協会への財産や事業の引継ぎ方法などの検討

実施内容

■第1回 令和5年2月21日（火） 「法人化に向けた検討状況の振り返り」

- 法人化に向けたこれまでの検討状況の振り返り
- 任意団体を一般社団法人化する際の手続やスケジュールに対する助言
- 法人化基本方針（案）の内容確認

■第2回 令和5年3月23日（木） 「協会の法人化に向けた検討1」

- 定款（案）及び組織体制（案）の説明
- 新旧協会の併存期間の設置検討
- 法人化に係る令和5年度定期総会の議案事項の確認

■第3回 令和5年4月24日（月） 「協会の法人化に向けた検討2」

- 令和5年度定期総会の議案事項「法人化基本方針（案）」に対する助言
- 法人協会の組織体制の検討
- 設立時社員及び設立時役員の人数について検討

■第4回 令和5年5月22日（月） 「協会の法人化に向けた検討3」

- 法人化基本方針決定に伴う、法人化スケジュールの全体見直し
- 法人化手続きに必要な書類の確認
- 設立時役員や、定款（案）についての助言



成果

- ① 法人化に必要な諸手続きや検討すべき課題が明確化され、全体スケジュールを精査することができた。
- ② アドバイザーの助言を踏まえ、協会の法人化基本方針（案）を作成することができ、令和5年5月に開催した第45回こくぶんじ観光まちづくり協会定期総会で可決された。
- ③ 法人化後の円滑で安定した事務執行を見据えた組織の構築に向けて、設立時社員や設立時役員の人選が具体化された。



課題

- ① 設立時社員及び設立時役員の就任調整や現協会役員の意向確認
- ② 法人協会の事務局員及び事務所の確保
- ③ 法人協会の運営に必要な諸経費の洗い出し及び財源の検討

今後の展開

- ① 定款の作成に向けたアドバイザー派遣の継続要請
- ② 法人化基本方針に沿った法人内容の検討及び定款の作成
- ③ 法人協会の運営に必要な予算の検討と市への支援要望
- ④ 令和5年度中の法人設立登記申請

今後の多摩市観光まちづくり交流協議会で取り組む活動と参考事例について

- 団体名 多摩市観光まちづくり交流協議会
- 派遣アドバイザー まちづくりラボ・サルベージ株式会社 代表取締役 大迫 道治
- 派遣地域 多摩市



現状・課題

多摩市の観光振興及び定住促進並びに地域経済の活性化に寄与することを目的として平成31年に設立した多摩市観光まちづくり交流協議会はコロナ禍にあってもできる、観光情報発信（「Instagram」「Google マイマップの作成」）や既存のイベントへのタイアップ事業などを行っているものの、主体的な取組ができていない状況である。令和5年度から新たなスタートを切るため、今まで行ってきた事業について振り返り、どのようなところに問題点、課題点があるか、近隣市での取組で得た知見を活かし、的確に指摘していただき、改善に向けたアドバイスをいただきたい。

実施内容

■第1回 令和4年12月23日（金） 「第1回打ち合わせ」

事前に協議会の会員に対し、「現在の多摩市の観光事業全般に対する課題点」「講演会で取り上げてほしいこと・質問事項」についてアンケートを取っており、その結果を大迫氏にも共有した。「食に関するプロジェクト」「観光協会の成り立ち・役割」「今後の多摩市観光まちづくり交流協議会の運営」等について、これまで大迫氏が携わってきた事業や経験を交えてお話いただき、今後協議会として事業を行っていく上でとても参考になった。

■第2回 令和5年1月18日（水） 「第2回打ち合わせ」

役員会にご出席いただき、講演会の内容についてお話いただくことによって、会員が講演会で何を求めているのかを直接話し合うことができ、当日に向けて内容をブラッシュアップすることができた。

また役員からは「事業を実施する上で苦労した点」や「その苦労を乗り越えるためのヒント」また、「事業を実施する上で陥ってはならない注意点」などを盛り込んでほしいという意見が出たため、それを反映していただくこととなった。

■第3回 令和5年2月13日（月） 「今後の多摩市観光まちづくり交流協議会で取り組む活動と参考事例について」

「地域観光協会の現状」として、組織体制、事業予算の内訳、実施事業の種類を教えていただいた。また観光協会設立の目的には産業活性化および定住人口確保の2パターンあり、その中でも共通の目的として、地域活力を維持・向上させることが重要で、そのためには観光まちづくり戦略が必要であると教えていただいた。

次に「多摩市の観光に関する考え」として多摩市観光まちづくり交流協議会の位置づけを再確認した。また具体的にどのような活動を行えばよいのかを「①まちの魅力を掘り起こし」「②観光コンテンツの提供」「③まちの魅力発信」と3段階に分けて提案いただいた。

最後に「参考事例」として、これまで大迫氏が関わってきた事業や、その他参考になる事例を「食・スポーツ・花・夜景・歴史・地域回遊」とジャンルに分けて、ご紹介いただいた。

成果

- ①多くの近隣各市で観光協会が設立されており、今回の講演会では観光協会の現状（「組織体制」「事業予算の内訳」「実施事業の種類」）についてのお話をいただき、協議会全体で観光協会への理解を深めることができた。
- ②数多くの参考事例についての「成功例」だけでなく「失敗例」などもお話いただいたことにより、協議会全体で今後事業を企画・実施する際の参考となった。
- ③今回の講演会を通して、多摩市観光まちづくり交流協議会が目指す活動の方向性としては、まずは市内や近隣市にいる方々に向けて、観光という視点で多摩市の魅力を感じてもらえるような活動を行い、段階を踏んで対外的に広げていくことが良いという結論に至った。

課題

- ①市内や近隣市の方々に向けた多摩市の魅力を感じてもらえるような事業企画
- ②観光協会の必要性を検討



今後の展開

■「多摩市食プロジェクト」の実施

多摩市における来訪、消費、再訪を促す取組として、食をきっかけに観光事業の活性化を図るプロジェクトを開始。現在はリーディングチームを発足し、多摩市ならではのテーマ設定で取り組み、市内飲食店等との連携や市内外のイベントへの出店を行っている。